

学校だより



くろくふう

校訓 継続は力なり

鴻巣市立吹上中学校

学校だより「緑風」は、毎月本校HPに掲載しています。

本校HP <https://fukiage-j-konosu.edumap.jp/>

令和6年1月9日(火) 第9号

新たな気持ちで

校長 二瓶 亮

新しい年が明けました。今年は元日に起きた能登半島地震、2日に起きた羽田空港での飛行機衝突事故と心を痛める震災、事故が相次ぎ、晴れやかな気持ちになれずにスタートしました。

とはいえ、2024年は始まりました。今年はオリンピックイヤーであり、フランス・パリを舞台に日本人選手の活躍が期待されます。そんな1年をどんな年にするか、目標を決めて行動に移し、昇り龍(辰)のごとく自分を成長させたいものです。

学校では3学期が始まりました。それぞれの学年での総仕上げとなります。吹中生が自らの力で未来を拓けるよう、教職員一同、一丸となって教育活動を行っていきます。



さて、年初めは、誰もが気持ちを新たに「今年こそは」と意気込みます。しかし、新たなことにチャレンジしたり、毎日継続して何かに取り組んだりすることは、やはり簡単ではありません。そんな時、これまでの経験をもとに、無理をせず、今の自分ができることに取り組み、ある程度の結果を出せて、失敗も少なくなります。私自身を振り返ってみても、挑戦よりも無難に「踏襲(今までどおり)」をしてきたことが多かったように思います。これではせっかくの新たな決意も勢いを失い、気持ちも守りに入って、できない言い訳を探すようになってのちのち後悔することになります。

このような状態に近い意味を持つ「おざなり」という言葉があります。「きまりきった」とか「誠意のない形ばかり」というような意味を含んでいます。この「おざなり」について、喜劇俳優の藤山寛美さん(故人)は、「芝居はうっかりすると、おざなりになりがちである。初日は役者をはじめ関係者一同が緊張しているから、舞台はおのずと引き締まるが、日が経つに連れておざなりになってくる。毎日の芝居がはんこで押したように覚えたセリフをしゃべっているだけで、役の人間に性根が入らず死んでしまっている。魂の抜けた芝居は、見ているお客様に与える感銘が薄い。」そして、「おざなりにならない舞台づくりこそ、役者を長持ちさせるコツである。」という言葉を残しています。

これは、大人であれば仕事に取り組む姿勢、教員であれば日々の授業に取り組む姿勢、そして生徒であれば学習に、行事に、部活動に取り組む姿勢、すべてに通じる考え方ではないかと思います。

新年は、芝居でいえば初日のようなものです。みんながやる気や程よい緊張感をもっています。大切なことはその新鮮な気持ちをもち続けることです。1年生はスキー教室で、2年生は校外学習で、これまでの先輩たちの経験に学びつつ、自分たちのカラー(挑戦)が出せる行事にして成功体験を積んでください。3年生は過去のデータを活用しつつ、でも最後は自分のやり方を貫いて、自らの手で道を拓いてください。各学年の総仕上げとなる3学期にふさわしい時間となるよう本校の教職員と共に、先見性をもって吹中生の将来につながる教育活動を創造していきます。学校と家庭、地域で力を合わせ吹中生が「自らの力で未来を拓く」人となるよう御協力、御支援をよろしくお願いいたします。